



令和5年(2023) 6月9日

24

今回は栃木県のおおひらさん^{おおひらさん}の太平山神社を紹介します。近くには國學院大学栃木高校や、名著「路傍の石」で知られる作家の山本有三文学碑などがあります。碑には、「たったひとりしかない自分を たった一度しかない一生を ほんとうに生かさなかつたら 人間うまれてきたかいがないじゃないか」と刻まれています。

桜とあじさい、紅葉のおおひらさん^{おおひらさん}の太平山

毎年6月になると会社の健康診断があります。その年の健康状態を占う意味で、栃木市の太平山神社の長い石段を登ってバテ具合で体調の良し悪しを判断しています。この場所を選んだのは神社の石段があじさいの名所であり、歴史上の逸話もたくさんあり、境内から臨む栃木市の眺めがとても良いからです。

今年は6月3日に行きましたが、あじさいはまだ2分咲き程度でした。それでもあじさいを楽しみに多くの人々が来ていました。



太平山神社

[太平山神社 公式ホームページ | 桜とあじさい、紅葉で有名な栃木県栃木市の太平山神社 | \(rpr.jp\)](#)



あじさい坂

町の名は「おおひら大平」でも「おおひらさん太平山」神社

太平山神社がある山の名前は「太平山」(標高341m)ですが、町の名前は「大平町」です。その由来についてはいくつかあるようです。「太」の画数4を忌避して「大」にしたという説や、村名は太平山から採ったが、字画が七五三(逆順)となるよう縁起をかついで「太」を「大」にしたという説などがあります。

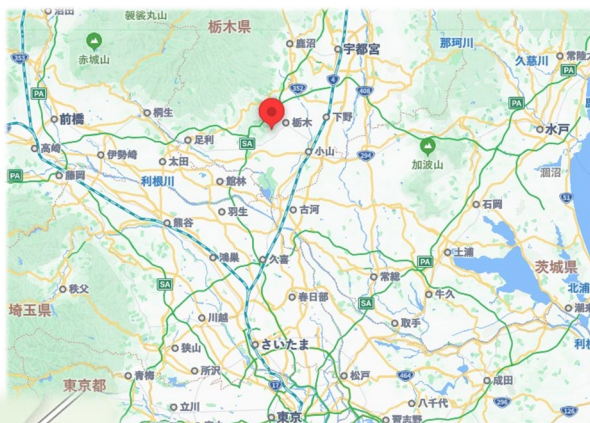
ところで、太平山と書いて「たいへいざん」と読む山が秋田県にあり、そちらは標高1170mもある大きな山で、太平山を中心に太平山県立自然公園に指定されています。

おおひらさん太平山にまつわる歴史

おおひらさん 太平山の中腹に「謙信平」という場所がありますが、上杉謙信がここから関東平野を見渡して平野の広さに驚いたという伝説が残されています。

太平山神社本殿の前に「御神石」という石があり撫でると御利益があるとされています。あじさい坂の石段は約1000段、あじさいは約2500株あります。

この神社は、じかくだいしえんにん慈覚大師円仁〔延暦13年(794)-貞観6年(864)〕の創建と伝えられ、じゆんな円仁が淳和天皇〔延暦5年(786)-承和7年(840)〕の勅額を奉じた「太平山開山記」に記録されています。風水害や疫病で苦しむ時代に天下太平を祈る神社として建てられました。



なおこの額は、天正年間の北条勢による皆川城攻めによる戦火で消失してしまいました。この時木彫りの獅子が焼け残ったことから、木彫りの獅子が栃木市の郷土玩具となりました。現在は入手困難とのこと。

太平山神社にはつぎのような言い伝えがあります。

- 春日局が世継ぎ誕生の祈願をしました。
- 随神門は徳川吉宗が寄進しました。

天井に龍の絵があり、今は色が落ちて消えそうですが雪舟の弟子の磯辺等随が書きました。



- あじさい坂の途中に「第二代横綱綾川五郎次受留め石」という石があります。

綾川五郎次は、「我に金剛力を授け給え」と神社に祈願した少年時代、満願の日に石段を登っていき、急な石段の上から巨大な石が落ちてきました。五郎次はとっさのことで逃げる事ができず、両手を広げて受け止め石段の空地に捨てました。この石が綾川五郎次の力石といわれています。



- 銭洗弁財天 窟神社

洞窟にある窟神社は、七福神の一柱、弁財天を祀っています。弁財天は、サラスヴァティーとも呼ばれるヒンドゥー教の女神です。日本神話での市杵嶋姫命いちきしまのめことが同一神とされる水の神様です。



- 栃木市内の巴波川の氾濫で度々橋が流されるので子供を人柱にしました。その霊が成仏せず、川底から大きなナマズが舞上がり子供の霊を太平山に連れて行きました。



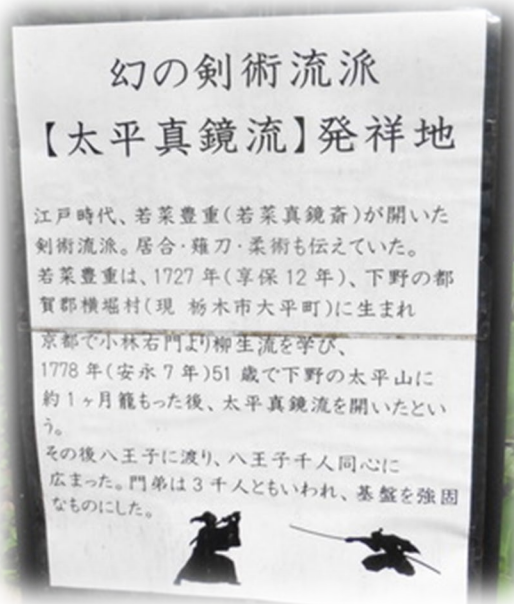
あじさい坂の麓の六角堂にはうなぎの彫刻が置かれ、坂の途中の子授け地蔵の祠は、子供の霊の着いたところとされています。



あじさい坂



- あじさい坂の途中に、この地の出身で明治後期にビール麦の契約栽培を導入し、栃木県を全国有数のビール麦生産地にした功労者田村律之助^{りつのすけ}の石像があります。律之助^{りつのすけ}は、大正時代にジュネーブで開催された国際労働会議に出席し、その後農村の労働条件の改善に努めたかたのことです。
- ここは太平真鏡流^{たいへいしんきやうりゅう}という剣術流派発祥の地です。享保12年(1727)、この地に生まれた若菜豊重(若菜真鏡齋)が開いた流派です。



神社から望む栃木市

栃木県民の日

栃木の「県民の日」は6月15日です。この日は、明治6年(1873)、栃木県が成立した日です。

県名の由来はつぎのようです。明治4年(1872)7月に廃藩置県が実施され、それまでの「藩」はすべて「県」となり多くの県が成立しましたが、その中に「栃木県」の県名はありませんでした。明治4年11月に「栃木県」と「宇都宮県」の2つに整理統合され、「栃木」という県名は、このときの最初の県庁所在地「栃木町(現在の栃木市)」に由来しています。さらに、明治6年(1873)6月15日に「栃木県」と「宇都宮県」が統合され、現在の栃木県が成立しました。当初、栃木町に置かれた県庁は、明治17年(1884)に宇都宮町(現在の宇都宮市)に移されました。

〔 齋藤茂樹の北関東巡り バックナンバー 〕

	#1 鎌倉殿の13人		#13 梅の名所 愛知・京都
	#2 紅葉の群馬県		#14 梅の名所 栃木・群馬
	#3 栃木、埼玉の名所		#15 早咲きの河津桜
	#4 栃木、群馬県庁		#16 シアトルの花見
	#5 全国御守り特集		#17 宇都宮市民合唱祭
	#6 世良田東照宮・家康		#18 桜の名所 愛知・兵庫
	#7 栃木・益子の陶器		#19 群馬の桜と上毛かるた
	#8 奥の細道むすびの地		#20 交通の要所・館林
	#9 古鎌倉街道		#21 第50回宇都宮市民合唱祭
	#10 新田義貞・上毛かるた		#22 骨波田の藤と塙 保己一
	#11 慈覚大師 円仁		#23 大室古墳群、鼻高展望花の丘
	#12 バレンタインチョコ		

[Back](#)

「齋藤茂樹の北関東巡り」TOPへ戻る

[Home](#)

「ホームページ」表紙へ戻る